

# 市民ワークショップの結果報告

## 1. 市民ワークショップについて

新たな環境基本計画の策定にあたっては、市民ワークショップを開催し、鎌倉市の未来のビジョンやその実現に向けてすべきことなどを話し合い、そこから得られた意見等を計画に反映することとしています。

市民ワークショップは、「Liqlid」を使ったオンライン意見聴取と、現地でのワークショップの2つの手法を用いて、意見を集約していくこととしたしました。

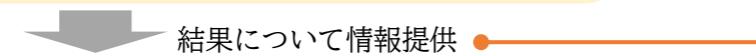
### ■これまでのワークショップの流れ

#### 第1回 Liqid (令和7年(2025年)10月2日より意見募集開始)

目的：鎌倉の環境に関する関心事を把握する

テーマ：「あなたが「ちょっと気になる環境のこと」（気候変動や自然環境など）をおしえてください。」

投稿数：621件（市役所での別イベント時に参加者が付箋記載した意見、市民アンケートにおける自由記述を含む）



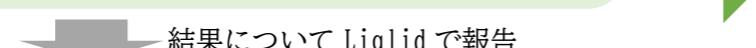
結果について情報提供

#### 第1回市民ワークショップ (令和7年(2025年)11月15日開催)

目的：鎌倉の未来のビジョンをチームで話し合う

テーマ：鎌倉の環境の「サイアクな未来」と「ベストな未来」

参加者：18名

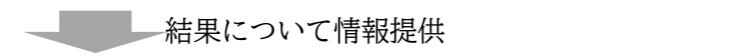


結果について Liqid で報告

#### 第2回 Liqid (令和7年(2025年)12月23日より意見募集開始)

目的：未来のビジョンに向けた具体的なアイデアを集める

テーマ（案）：やるべきこと、やってみたいことのアイデアは？



結果について情報提供

#### 第2回市民ワークショップ (令和8年(2026年)2月21日開催予定)

目的：未来の環境のために今できることを話し合う

テーマ（案）：計画に位置付けてみんなで進めプロジェクトは何か？

参加者：20名程度を想定

## 2. 第1回市民ワークショップの概要

第1回市民ワークショップでは、鎌倉市の未来の環境について、参加者の関心のあるテーマごとに「サイアクな未来」と「ベストな未来」について話し合いました

### ■第1回市民ワークショップの開催概要

会 場	鎌倉芸術館 ギャラリー1
日 時	令和7年(2025年)11月15日 (土) 13:30~16:30
参 加 者	18名
コンセプト	第4期鎌倉市環境基本計画の「未来のビジョン」の検討材料として、「ベストな未来」のアイデアを導出する。

### ■市民ワークショップのプログラム

#### STEP 1：参加者それぞれの環境について関心のあることを教えてもらい、意見の分類を行いました

参加者が関心のある環境のことを付箋に書いてもらい、パネルに張り付けて、テーマ別に意見の分類をしました。



#### STEP 2：話し合う環境のテーマを決めて、グループに分かれて未来について話し合いました。

分類した意見を踏まえて、4つの話し合いのテーマを決めて、4つのグループでそれぞれのテーマについて話し合いました。各グループで今のままだと起こりえる環境の「サイアクな未来」を議論したうえで、実現したい「ベストな未来」を話し合いました。



#### STEP 3：話し合いの結果についてインタビューをして、意見をまとめました。

それぞれのグループに話し合った内容についてインタビューを行って、意見内容のまとめを行いました。

※ STEP 1～3までを2回実施しました。



### 3. 第1回市民ワークショップで出た意見やアイデア

#### 【1回目の話し合い】

1回目の話し合いでは、STEP 1での参加者に環境について関心のあることを提出してもらい、意見ごとに分類を行うと右図のとおり「ごみ問題」、「3R」、「気候変動」、「自然環境」、「観光客の問題」、「移動の問題」など様々なテーマが見つかりました。

各テーマごとに参加者に話し合いたい内容を挙手形式で選んでもらい、1回目の話し合いのテーマを「ごみ問題」「3R」「移動」「オーバーツーリズム」の4つに決めて、テーマごとのグループに分かれて話し合いを行いました。

1回目の話し合いで得られた未来のアイデアに関する意見を下表に示します。

#### ■ワークショップでのベストな未来のアイデア（1回目のグループでの話し合い）

テーマ	サイアクな未来への意見（懸念・不安視する点）	ベストな未来のアイデア（目指すべき方向性）
ごみ問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別不徹底によるリサイクル崩壊と危険物の混入等による現場負担の極端な増大するリスク</li> <li>在宅医療やセルフケアの普及によって宅医療廃棄物が家庭ごみに混入すること</li> <li>高齢化の進展により、個人では細分化された分別が「実行不可能」になること</li> <li>個別収集の全市展開による人員不足・財政負担の増加が問題となること</li> <li>観光客増加によるポイ捨てが常態化すること</li> <li>海洋ごみ增加が生態系・漁業に影響を与えること</li> <li>地域コミュニティの希薄化によってクリーンステーションの維持ができなくなること</li> <li>戸別収集のごみ容器に観光客がごみを捨ててしまうこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携や地域の誇りを通じた分別促進やごみ問題改善</li> <li>観光客にも美化意識を伝えることによる、ごみの持ち帰り等の啓発</li> <li>景観に配慮したごみ容器の整備</li> <li>誰にとっても排出しやすい、やさしい分別・収集システムの構築</li> <li>海洋ごみの削減に向けた陸上でのごみ管理強化と海岸清掃の継続</li> <li>3Rのさらなる推進に向けた個人の意識向上。</li> </ul>
3R	<ul style="list-style-type: none"> <li>「リデュース」が進まず、使い捨て依存のまま社会が進行すること</li> <li>壊れたものや古いものを修理・リメイクする文化が衰退し、衣類・家電の廃棄量が増大すること</li> <li>古い建築物の更新・保存の両方により環境負荷が増大すること</li> <li>自動車・家電・家具などの「所有」の当然視が続き、資源消費が減らないこと</li> <li>市民の危機感の不足によって変化が停滞すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リデュースの徹底により、まず「出さない」こと</li> <li>「リユース・修理」の日常化</li> <li>アップサイクルが文化として根付くこと</li> <li>建築分野での3Rの高度化（外観保存&amp;内部最新化、解体時の素材ごとの分別など）</li> <li>環境負荷の総量（製造時+使用時）で評価し、最適な更新を行うこと</li> <li>「所有」から「共有」への意識の転換</li> <li>地域での資源循環への市民意識として根付くこと</li> </ul>
移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通サービスの縮小によって地域が衰退すること</li> <li>バス会社の経営悪化と公共交通の「縮退スパイラル」が起こること</li> <li>観光客の交通により排気ガス・騒音・渋滞等の生活環境の悪化が発生すること</li> <li>歩道の劣化や道路舗装の熱蓄積によりヒートアイランドが悪化すること</li> <li>新技術の活用が進まず、実証で終わってしまうこと</li> <li>需要の見える化が進まず、交通網が最適化されないままとなること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉の地形に合わせた「歩くまち」と「移動資源の最適配置」</li> <li>多様なモビリティを組み合わせた「コンパクト・モビリティ都市」</li> <li>観光と市民の移動が共存する交通体系や制度構築</li> <li>歩道のバリアフリー化や熱対策舗装の導入</li> <li>住民の「互助」と行政支援を組み合わせた移動手段の維持（地域タクシー、相乗りなど）</li> <li>小さく試し、ニーズに合わせて育てる「実証×改善の循環」</li> <li>「来てもらう」サービスによる移動需要の減少（移動スーパー、ネットスーパーなど）</li> <li>深沢地区・周辺都市との連携を見据えた交通再設計</li> </ul>
オーバーツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>住環境が民泊などの観光によって浸食され、安心して生活できなくなること</li> <li>道路の狭さと観光交通の増加が組み合わさって移動できなくなくなること</li> <li>鎌倉の自然環境の静寂性・価値が喪失すること</li> <li>観光客・住民間の摩擦が増え、地域の対立が深まる</li> <li>食べ歩きやごみの不法投棄により、まちや海の美観が喪失すること</li> <li>メディア露出・SNSブームに対応できず、一部の地域に観光客とそれによる問題が集中すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客を排除するのではなく共存するための、観光需要の分散・誘導・規制</li> <li>住民自身が高い美意識を持ち続けることでの規範の創出による、観光客のマナー向上</li> <li>観光客とのコミュニケーションの円滑化やルールの啓発に向けた技術の活用や伝える仕組みの構築</li> <li>ごみを「発生させない・残させない」観光の実現に向けた制度やサービス（過剰包装抑制、公式ごみ箱設置など）</li> </ul>

1回目の環境について関心のあることの意見分類



## 【2回目の話し合い】

2回目の話し合いでは、STEP 1での意見提出と分類の結果、右図の「意識啓発」、「参加の仕組み」、「自然との共生」、「ごみ削減」、「観光客との共存」などのテーマが抽出されました。

これらに1回目のテーマ決めて話し合いのテーマとならなかった「気候変動」、「自然環境」などのテーマを加えて、テーマごとに参加者に話し合いたい内容を挙手形式で選んでもらい、2回目の話し合いのテーマを「ごみ削減」、「環境の意識啓発・参加の仕組み」、「気候変動の問題」、「自然との共生」の4つに決めて、テーマごとのグループに分かれて話し合いを行いました。

2回目の話し合いで得られた未来のアイデアに関する意見を下表に示します。

2回目の環境について関心のあることの意見分類



## ■ワークショップでのベストな未来へのアイデア（2回目のグループでの話し合い）

テーマ	サイアクな未来への意見（懸念・不安視する点）	ベストな未来のアイデア（目指すべき方向性）
ごみ削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチックごみ・マイクロプラスチックの排出量の増加による健康被害などが発生すること</li> <li>ごみ処理を市外に依存している状況や災害時に市内のごみが滞留すること</li> <li>ウォーターステーション縮小によってマイボトルの利用が限定されること</li> <li>将来発生するソーラーパネルの大量廃棄に対応できなくなること</li> <li>個人任せの分別・資源化は継続性が低く、地域全体での改善が進みにくくなること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ごみを出さないこと」を前提にした循環型ライフスタイルの定着</li> <li>適正な排出と高品質な資源化が当たり前の未来</li> <li>災害に強いごみ処理体制に向けた市内での一時保管体制の強化</li> <li>使い捨てを減らす公共施設・公共空間（自販機の見直し、給水スポットの増設）</li> <li>地産地消の日常化（地域流通による包装・輸送の削減、量り売りや容器持参の推進等）</li> <li>子どもの行動変容が家庭・地域へ波及する「良い循環」の創出</li> </ul>
環境の意識啓発・参加の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に対する無関心や行動への揶揄が参加を阻害していくこと</li> <li>環境に関する情報が届かず、活動への参加機会に気づかない層が増えること</li> <li>仕事・家事・育児で余裕がない20~30代が活動から取り残されること</li> <li>子どもの環境教育機会の減少によって次世代の環境意識が低下すること</li> <li>地域コミュニティが弱体化し、地域での連携が進まなくなること</li> <li>効果の可視化や表彰等のインセンティブの不足により行動が継続しないこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理的安全性のある「行動を歓迎するコミュニティづくり」</li> <li>子どもを入口にした「親子参加型」の実施・継続モデルの構築</li> <li>多忙層・若者を巻き込む柔軟な参加方法（短時間、夕方開催、環境が主目的でない参加型企画）</li> <li>企業・職場と連携した新しい参加の仕組みづくり（就業時間内ボランティア、企業対抗の環境ランキングなど）</li> <li>情報が届きやすい仕組みを再構築（メディア間の連携、ターゲットに合わせた情報発信）</li> <li>アップサイクルや清掃など実践型プログラムの拡充</li> <li>インセンティブ（特典・称賛・可視化）による継続参加の促進</li> </ul>
気候変動の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界的な気候危機が鎌倉にも直接影響すること（海面上昇、災害など）</li> <li>都市機能・生活インフラが気候変動に耐えられなくなること</li> <li>脱炭素化が進まず、温暖化をさらに加速させること</li> <li>家庭や事業所、公共施設での省エネの取組が進まないこと</li> <li>緑の機能（CO<sub>2</sub>吸収・雨水保持・生物多様性の維持機能など）の低下によって環境が悪化すること</li> <li>気候変動の問題に対する「意識の温度差」によって社会の分断が起こること</li> <li>若年層が意識不足のまま、未来の担い手が育たなくなること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉が「気候変動対策」のローカルモデルを世界に提示</li> <li>交通・エネルギーの脱炭素化を一体的に推進（EV・水素バス、ステーションの整備）</li> <li>家庭や事業所、公共施設での省エネルギーの定着</li> <li>自家用車依存からの転換のための公平で使いやすい公共交通の整備</li> <li>緑の機能を正しく評価し、守り・育て・活用すること</li> <li>危機感とワクワク感の両立した市民参加の仕組みづくり</li> <li>若年層を巻き込む学びと行動の場の拡大（学校教育での地域連携、実践型プログラムの実施）</li> <li>KPIに基づく気候変動対策の管理と市民への情報公開</li> </ul>
自然との共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動により自然が急速に変質すること</li> <li>野生動物との衝突が増加し、生活の安全と自然共生が両立しなくなること</li> <li>外来生物が生態系を大きく破壊すること</li> <li>緑はあるが機能が低下した形骸化した自然になること</li> <li>市民の善意の活動頼みで、保全活動が持続できなくなること</li> <li>体験機会の不足で、次世代が「自然を知らない」状況になること</li> <li>水循環が崩れ、治水・水環境が脆弱化すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「量」だけでなく「質」が維持・向上された自然環境</li> <li>人と野生動物が「距離感を保ちながら共生」すること</li> <li>外来生物の侵入を防ぎ、生態系を健全に維持すること</li> <li>行政×市民×専門家との連携による効果的な自然保護活動</li> <li>風致地区等での行政等による積極的な自然への関与</li> <li>子どもから大人まで楽しく参加できる体験型参加プログラム</li> <li>鎌倉の自然と世界の課題をグローバルな視点で結び付けて考えること</li> </ul>